

皆さまの善意に感謝します

6月22日、ビルメンテナンスや学校給食業務などを手掛ける(株)サン・コーポレーション(太田洋一代表取締役)から、市内の児童生徒たちが安全に学校生活を送れるようアルコール消毒液15缶(約225リットル)が寄贈されました。



目録を手渡す同社の太田副社長

6月22日
(公財)日本公衆電話会青森支部(岡沼博支部長)

児童生徒が交通事故やネット犯罪から自分を守り、安全安心な生活に活用してほしいと、小学生向けに「こども手帳」800冊、中学生向けに「ネット安全ガイドBook」800冊が寄贈されました。



時計を手渡す近藤会長(左)と斎藤副会長(右)

6月28日、県自動車整備西津軽協議会(近藤鉄二会長)から、市と市消防本部に同協議会の創立50周年を記念し、電波式掛け時計が寄贈されました。

6月28日 市民
市立図書館の図書購入および設備の充実に活用してほしいと100万円が寄付されました。

7月5日
ごしょつがる農業協同組合(齊藤勝徳代表理事組合長)

小学生および教職員のJAや農業、自然への理解促進に活用してほしいと、同農協管内である向陽・瑞穂・穂波小学校の5年生を対象に食農教育をすすめる雑誌「ちやぐりん8月号」123冊が寄贈されました。

県大会を制覇し全国大会へ

6月6日に中泊町体育館において第18回全国小学生学年別柔道大会青森県予選会が開催されました。

小学6年男子65kg超級に出場した車力柔道少年団の佐藤慧珠くん(車力小)と、小学6年女子40kg級に出場した木造柔道少年団の工藤穂乃さん(森田小)が、見事優勝を飾りました。優勝の喜びと全国大会への抱負を報告すると、「勝つことはもちろんですが、大会を楽しんでください」と倉光市長が激励しました。

優勝した2人は、8月29日に大阪府堺市立大浜体育館を会場に開催予定の全国大会に出場します。

全国大会では上位入賞を目指したいと抱負を話す佐藤さんと工藤さん



6/30 市役所



全国大会では自己ベスト更新と決勝進出を目標に掲げる田村さんと千葉くん

6月27日に新青森県総合運動公園陸上競技場において第37回全国小学生陸上競技交流大会青森県選手選考会が開催されました。

小学6年女子100mに出場した向陽陸上スポーツクラブの田村円樺さんと、小学5年男子100mに出場した同クラブの千葉大翔くんが、見事優勝を飾り、優勝の喜びと全国大会への抱負を報告すると、「全国の選手たちの力を肌で感じ、堂々と戦ってきてください」と倉光市長が激励しました。優勝した2人は、9月18日・19日、日産スタジアム(横浜市)を会場に開催予定の全国大会に出場します。

郵便局と包括連携協定を締結

平成29年5月に市と市管内の郵便局、五所川原郵便局との間で、平常時業務中の「高齢者見守り」や「道路損傷箇所の見守り」といった相互協力について協定書を交わし、市民サービスの向上に大きく寄与してきました。

この日、以前の協定内容に加え、特産品PRの支援をはじめ、子どもが助けを求めてきた場合に一時保護し警察へ110番通報するための避難場所として郵便局を提供することなどを含めた新たな協定を締結しました。市と郵便局がそれぞれ有する人的・物的資源を有効活用することで、住民サービスのさらなる向上が期待できます。



協定書にサインする倉光市長、工藤木造郵便局長(中)、
畠山五所川原郵便局長(右)

災害が発生した場合、避難する判断と行動が重要

6/26 柏ふるさと交流センター



自身の経験をもとに熱心に語る佐藤氏

NPO法人つがる野文庫の会（長谷川勝則理事長）と教育委員会は、小さな命の意味を考える会代表の佐藤敏郎氏を講師に招き、市民防災講座を開催しました。佐藤氏は元中学校の教諭で、東日本大震災による津波で当時大川小学校に通う6年生の次女を亡くしました。児童74人、教職員10人が犠牲になった大川小の当時の状況をもとに「すぐ隣の山に避難すれば助かったのに、山に避難する判断・行動ができなかった。後悔しないために、他人事ではなく自分事として捉え、念のために避難することが重要」と語りました。

大切な人の命を守るためにも、普段から災害時の避難先や避難経路を確認しておきましょう。

新宿区立津久戸小の児童たちがメロン栽培に挑戦

東京・神楽坂にある市東京事務所では、市特産のメロンのPRの一環として、同事務所に近い新宿区立津久戸小学校の協力のもと、2学年の授業においてプランターメロンの栽培にチャレンジしています。

この日は、市東京事務所職員が小学校を訪れ、市の紹介やメロンの水やりの方法などを説明しました。児童からは「メロンが病気になったらどうするの?」と質問され、職員が「魔法の薬で治します」と答える場面も。神楽坂の地で、メロンがすくすくと育てほしいですね。

6/29 新宿区立津久戸小学校



初めてのメロン栽培。真剣に栽培方法を聞く児童

第80回国民スポーツ大会の開催に向けて

7/1 松の館



大会の成功に向けて動き出した準備委員会

この日、第80回国民スポーツ大会つがる市準備委員会の設立総会・第1回総会が開催されました。同大会は、2026年に本県で開催され、現在建設中の(仮称)市総合体育館においてバレーボール(少年女子)と柔道(全種別)の競技が行われます。準備委員会は市民・各種関係団体・行政から組織され、市民の総力を結集して、準備に万全を期し、大会の成功を目指します。

総会では「例えば、バレーボールのまちやバスケットボールのまちといった、特徴ある生涯スポーツを掲げて地域活性化につなげてほしい」「地元から一人でも多くの選手に出場してほしいので、今から選手の育成、強化に力を入れてほしい」と活発な意見があがりました。

7/1 西北配水場中央棟（森田町）



給水を祝いテープカットに臨む倉光市長はじめ関係者

浅瀬石川ダムからの給水開始

津軽広域水道企業団西北事業部は、浅瀬石川ダムを水源とする給水の切り替えに当たり、給水開始式を行いました。

西北事業部はこれまで岩木川などを水源とする7浄水場から給水してきましたが、河川の水質悪化や地下水の揚水量不足、浄水場の老朽化などが深刻化。浪岡地区から市浦地区まで約86kmの送水管を布設し、給水区域内には約94kmの配水管を整備。森田地区を皮切りに、洗管作業を終えた地区から順次給水切り替え作業を行い11月には市内全域へ、水道未普及地域には今年度中に配水管布設工事を行い、来年6月ごろの給水を予定しています。

木造夕市がはじまる

木造夕市の会（八木橋リウ子会長）が、市商工会駐車場で今年最初の「木造夕市」を開催し、大勢の買い物客でにぎわいました。

この日は採れたてのレタスやトマトのほか、手作りのえごてんやんにく味噌などを販売。市内から訪れた坂本正夫さんは「新鮮で安くておいしいサクランボや下処理されたミズが入って良かった」と満足そうに話していました。

夕市は10月末まで毎週木曜日15時から開催（9/23は休み）されます。お盆（8/12(木)）と十五夜（9/21(火)）には、特別セールも予定しています。

7/1 市商工会駐車場



手作りの漬物や納豆も大人気

特産のメロンがおいしい季節になりました

7/6 森田小学校



ジューシーなメロンを口いっぱい頬張る児童

この日、市内のこども園と小中学校の給食に糖度15度以上のつがるブランド認定のタカミメロンが、教職員を含めた3,314人に振る舞われました。森田小学校（平山和仁校長）4年の教室で生き物係としてメロンの苗に水やりをしている須藤乃愛さんは「思ってるより甘くておいしかった」と笑顔。

市内のスーパーや農産物直売所10カ所では、タカミメロン1玉がいつもよりお得な666円の特別価格で販売。開店前から大勢の買い物客が並ぶ店舗もあり、用意した約1,300個が飛ぶように売れました。

つがる農協木造総合支店でメロンの出荷式が行われました。今年のメロンの出来栄について同農協の斉藤組合長は「今年は雨が少なく気温が高かったため、大玉でおいしいメロンができた」と話しました。メロンを試食した倉光市長は「非常に甘くておいしいメロンができた。今年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されるので、自宅でメロンを食べながら、がんばれニッポン！そして、がんばれつがる！と応援してほしい」と巣ごもり需要も期待しました。今年は19万箱、5億円の販売目標が掲げられ、名古屋・大阪方面に向けてメロンを満載したトラックが出発しました。

7/14 JAつがる木造総合支店



出荷されるメロンにブランド認定のシールを貼る倉光市長、斉藤組合長(右)、浜山メロン部会長(左)

子育て世帯を支援する活動が広がっています

「こども食堂 1~NA~」(傳法谷公二代表)が子ども食堂の取り組みを始めました。初めての活動となったこの日は、稲垣地区の児童生徒を対象に、弁当の無料配布を行いました。傳法谷さんは「今はコロナ禍なので、弁当配布の形式ですが、将来的には人が集まって食事ができようにし、世代間の交流や子どもの居場所づくりにも取り組んでいきたい」と意欲満々でした。(関連情報16ページ)



笑顔で弁当を手渡す傳法谷代表(右)

7/17
おかず屋

ボランティア団体「チームなないろ」(川村沙織代表)が、向陽小学校と柏小学校の学区の子育て世帯を対象として、弁当や食材、日用品などを16世帯に無料配布しました。

場所は認定こども園育実幼稚園が提供し、弁当は県共同募金会の助成金を活用して購入したほか、配布した食材や日用品は市内の寺院や商店などが提供。柏地区から訪れた家族は「子どもが5人いるので、弁当や食材などの無料配布はすごく助かる。大変だと思うが活動を続けてほしい」と話しました。次回は、秋ごろに行う予定です。



子育て世帯に食材等を手渡す川村代表(左)

6/20
育実幼稚園

コロナ禍でも園児たちは元気に活動中

銀杏ヶ丘こども園(稲葉綾子園長)では、年少組から年長組までの43人が、地域貢献の一環として同こども園周辺を練り歩き火の用心を呼びかけました。火の用心マッパ一本火事のもと!



7/1
銀杏ヶ丘
こども園
周辺

強い日差しにも負けず元気よく火の用心を呼び掛ける園児

しげた保育園(工藤敦子園長)の年長組7人が、シジミ漁師松橋信幸さん(富范町)に教わりながら、シジミ拾いを体験しました。ずぶ濡れになりながらも園児は笑顔で「採ったシジミ貝をみそ汁にして食べたい」と話してくれました。



6/30
十三湖
(富范町)

「大きなシジミ貝が採れたよ」と見せてくれた園児

きれいな海岸のために

一人で始めたごみ拾いの活動がSNSを通じて広がり、話題を集めている「SAYAKA.KANKAN」さん。

この日、主催した出来島海水浴場から木造漁港までのゴミ拾いには、市内外から活動に賛同する約100人が集まり、きれいな海岸のために汗を流しました。



SAYAKA.KANKANさん(中央手前)とその活動に賛同する皆さん(出来島)

7/11
出来島
海水浴場



7/11
車力漁港
周辺

ポリ容器や漁具などを拾い集める参加者(車力)

車力漁業協同組合(尾野明彦組合長)では、組合員とその家族など約60人が集まり、車力漁港から車力サンセットドームまでごみを拾い集めました。主催した同漁協尾野組合長は「美しい夕日を見に来て楽しんでもらえるよう、海岸をきれいになりたい」と話しました。